



福岡に単身赴任した際に、土地の風景に魅せられて絵を描く楽しみを覚え、忙しい仕事の合間にハガキに描いた風景スケッチを田舎の両親や広島の家族に送るのが楽しみのひとつでした。2008年（平成20年）秋、脳梗塞で倒れ、絵を描くことは中断していましたが、リハをしていく中で次第に元気を取り戻し、外出できる喜びとともにスケッチを再開しました。

この日の倉敷はとても暑かったです。美観地区はすごい人でしたが、勇気を出して川べりに腰をおろして描いてみました。病後は落ち込んだ気持ちでいっぱいでしたが、リハを続けることで前向きな気持ちになれ、こういう機会をもてたことに感謝し、これからもリハを継続して頑張って描いていこうと思います。



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



れんがの家の子どもたち 「みんなのこいのぼり」

合志市で放課後等デイサービスをしております。今回は「みんなで考えたこいのぼりをつくろう！」をテーマに、年齢も障がいもさまざまな子どもたちが、それぞれもつ力を活かし制作に取り組んでくれました。うまくなじめないお友だちも、一人の男の子が「一人一文字で“みんなともだち”って書こう！」と提案してくれたことから打ち解け、制作を通してみんなの絆も深まりました。重度心身障がいをもつ子どもたちはお友だちのサポートでみんなと制作を楽しんでいます。筆を持ち、思い思いに色を塗ってくれました。（担当：合志市社協「れんがの家」指導員）